

令和3年度 事業報告

令和2年1月から始まったコロナ禍は、収束の見込みが立たない中で令和3年度を終えた。産業界では観光関連事業者が最も大きなダメージを受けてきたが、県・市と連携しながら可能な限りの観光振興に努め、アスピア事務所を名張駅前案内所と統合し「なばり観光案内所」としてリニューアルするなど収束後を見据えて事業を推進した。

I 公益事業に関わる事業

1 観光まち歩き事業

(1) 「ボランティアガイドと歩こう」の開催

コロナ対策を講じながら、参加者確保を目的にポイントラリーと賞品提供を行った。年6回を各回定員45名で募集したところ70名以上の応募があり、原則先着順としながらキャンセル待ち対応した。内2回は新型コロナウイルス対策のため中止した。

月日	コース	参加者数
4月6日（火）	春の勝手神社(黒田)から名張を望む	40人
5月11日（火）	旧伊賀線跡を歩こう(桔梗が丘～名張)	中止
6月15日（火）	ささゆり咲く深野を訪ねて	中止
10月12日（火）	箕曲地区の古代から近世の歴史を巡る	42人
11月2日（火）	シャックリ川源流と東山公園	45人
12月7日（火）	赤目地区の古墳を巡る	23人

※参加者数に変動があるのは、天候等により当日欠席者が出るため。

(2) 観光ボランティアガイドの案内スキルの向上支援

- ・視察研修（松阪） 10月19日（火）、松阪市のボランティアガイドに現地案内をお願いし、案内スキルの向上に努めた。ガイド参加者15名。
- ・現地研修（竜口） 3月17日（木）、錦生地域で新たなトレッキングコース（伊賀竜口から大和龍口コース）が整備されたため、オープンに先がけて錦生自治協議会と連携してボランティアガイドの現地研修会を行った。ガイド参加者12名。

(3) 観光ボランティアガイドのまち歩きへの活用促進

- ・観光客の申込による個別ガイド利用実績
市内より3件 69人
市外より4件 38人 計7件 107人、ガイド延べ13人
- ・名張市教育委員会からの申込を受けて名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館にガイドを配置協力（8月3日から協力開始）
計41日配置、対応入館者延べ237人、ガイド延べ109人

II 観光客の誘致促進に関する事業

1 インフォメーション業務について

(1) 観光案内所について

○名張駅前案内所（4月1日～2月4日）

次の期間を除き年中無休で業務を行った。

8月30日～9月30日 新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業。

12月1日～2月4日 案内所拡張・リニューアル工事のため臨時休業。

ただし、電話、ファクス、メール対応はアスピア事務局で業務継続。

12月29日～1月3日 年末年始期間の全部休業。

○なばり観光案内所（2月5日～3月31日）

2月5日（土）～駅前案内所施設を拡張、リニューアルオープンした。

「なばり観光案内所」に改称。

名張産業振興センター事務所（窓口）は廃止。

○名張産業振興センター事務所（4月1日～2月4日）

平日（祝日・年末年始を除く）は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、窓口、電話、ファクス、メールにより業務を行った。

2月5日をもって事務所（窓口）を廃止。

※「なばり観光案内所」整備の経過

H29.2策定 「組織改革と運営ビジョン」において、経費削減を主目的に名張駅前周辺への事務所移転を急ぐことを明記。

R3.7.6 三重交通株式会社（以下「三交」）より金額を含め相談に応じる旨の回答。

7.12 第2回理事会において年間賃料上限70万円、建設協力金（三交が実施する工事費用）500万円以内の方針で取り組むことを決定。

8.27 三交より賃料年875,600円（税込）の提示。

9.21 みなし決議による第3回理事会により、賃借料決定交渉を継続すること、拡張改修工事を実施すること及び一連の手続きを四役に一任することを決議。同日、協会員プロポーザル方式・デザインビルド方式による「名張駅前案内所拡張改修事業」実施要領を発表し、設計施工できる会員の募集、選定を開始。

9.21 アスピア事務所廃止に向けた作業開始に伴い、名張商工会議所がアスピア賃料の免除を決定。

11.10 改修事業優先交渉権者選定委員会（三交、市、協会で組織）において優先交渉権者を決定。以後、三交において契約交渉から工事までを実施。

11.22 第4回理事会において、工事にかかる建設協力金及び移転資金として575万円の借入を決定。

12.7 建設協力金4,554,000円（税込）として協会が三交に支払うことの覚書を交換。また、工事の内、看板と日よけ幕工事費用446,000円（税込）は協会が直接負担することとなった。計5,000,000円（税込）。

さらに、賃料を月額22,000円から60,000円（税抜）に増額することとしてS52.4.26締結の賃貸借契約の変更覚書を交換。年額に換算すると792,000円（税込）。

R4.1.21 金融機関より575万円を借入。

1.24 第5回理事会において、「なばり観光案内所」の名称を決定するとともに、名張産業振興センター内事務所の廃止を決定。

2.5 リニューアルオープン

(2) 「なばり観光案内所」における案内のスタイルについて

○みえ安心おもてなし施設「あんしん みえリア」として登録（感染症対策）

○JNTO認定観光案内所として登録（訪日外国人対応）

○パンフレット類配架スペース、ミニイベントスペースの確保

○窓口専用PCの設置

○年末年始を除き年中無休体制の確立

2 情報の収集力、発信力の向上について

○公式ホームページ 年間ページビュー数

227,541PV（前年度249,122PV）8.66%減

○「ツイッター」フォロワー数

3,656人（前年度3,370人）8.49%増

○「インスタグラム」フォロワー数

1,389人（前年度1,182人）17.51%増

○「フェイスブック」フォロワー数

834人（前年度766人）8.88%増

(1) ホームページのアクセス数向上のための取組み

「赤目四十八滝」、「忍者」等の検索数の多いワードから協会ホームページへつながるようページ構成を工夫した。

閲覧者からの提案や要望に対し、可能なものは早期に対応するよう心掛けた。

(2) 発信内容の方向性を整理統合して来訪者ニーズに対応

問い合わせのあった内容を即時ツイッターにより発信するなど、来訪者が知りたい内容を発信するよう心掛けた。

3 プロモーション事業の推進について

(1) 観光キャンペーンなどのPR活動の実施

○東大和西三重観光連盟主催のキャンペーンに参画

7月16日（金）近鉄奈良駅構内にて

観光協会より1名、青蓮寺ぶどう組合1名とともに参加。

パンフレット類500セットを配布。

○赤目四十八滝溪谷保勝会主催の「VISIT JAPAN トラベルマート2021」インバウンド商談会に参画

3月1日（火）～3月3日（木）赤目ビジターセンターを拠点としたWEB商談会に参画。

(2) ポスター、チラシの制作

○観光ポスター選抜総選挙

新たな名張市の観光PRポスターのデザインを入手するため、名張高校が主体となって実施する「観光ポスター選抜総選挙」（生徒たちが考えた原案を、市民らの投票で優秀作品を決定）の取り組みを支援した。

3月7日（月）～3月18日（金）「なばり観光案内所」で作品の展示と投票箱を設置した。原案の9作品（A4判）は案内所内で掲示中。

デジタルデータの提供を受けるとともに、使用許可を得ているため、最優秀作品は必要に応じポスター化が可能。他の8作品も利用できる。

(3) 旅行会社やメディアへの積極的な営業活動の実施

情報提供の要請には積極的にかつ丁寧に対応しながら電話、メール、WEBを活用して営業活動を行った。

（JTBパブリッシング、鉄道情報システム(株)、東海ウォーカー、リクルートじゃらん、昭文社、三重県観光連盟、近鉄、(有)ハユマ、中日アド企画、公社日本観光振興協会、龍神観光(株)、ENN、(株)アドプラン、三岐鉄道(株)、(株)イベントバンク、(株)造事務所、関西テレビ、NHKエンタープライズ中部支社、トーキョー・テンドー・テーブル(株)、協同組合インフォメーションテクノロジー関西)

- (4) とこわか国体をターゲットとするプロモーションの実施
実行委員会の構成団体として案内業務及び独自のおもてなし事業を計画したが、国体が中止になったため実現しなかった。
- (5) 『幽玄の竹あかり』来場者をターゲットとするプロモーションの実施
とこわか国体におけるプロモーション事業の代替事業として、11月21日（日）（10：00～16：00）、赤目四十八滝で開催中であった『幽玄の竹あかり』来場者をターゲットに赤目自然歴史博物館前を中心に実施した名張市の魅力発信イベントにおいて、主催のなばり竹あかりSDGsプロジェクト実行委員会の一員として運営にあたりるとともに、協会として市内の観光案内ブースを設置しプロモーションを行った。

主な内容

- ・銘菓の販売、野菜等の販売
- ・名張市創業支援店舗の出店支援
- ・ホッケーのまちPR
- ・名張市PR
- ・和太鼓演奏

4 観光客誘致につながる市内でのイベントの推進について

(1) 地域イベントへの参画と協力体制の確立

○名張川納涼花火大会（実行委員会事務局）

名張川納涼花火大会実行委員会の構成団体として参画し、新型コロナウイルス感染症対策をしながら小規模な花火大会を2回開催した。

第1回 8月12日（木）19：30頃～ 約6分間 75発

第2回 12月27日（月）18：30頃～ 約6分間 75発

○名張桜まつり

名張桜まつり実行協議会に参画し、桜まつりを計画したが新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止。

一方で、中央公園の桜を守ることを目的とした「桜満開プロジェクト」を2月17日（木）（10：00～12：00）に開催し、堆肥撒き、幹に付いた苔や腐った幹枝部分を除去する「木の垢落とし」を行った。

○八日戎（福娘選考事務とはまぐり入り粕汁のふるまい）…中止

○松明調進行事（一般応募者の取りまとめ事務）…中止

○鮎バトル、隠街道市、名張秋まつり…中止

(2) 主催イベントによる観光地づくり

○女性部会独自イベント（名張駅前イルミネーション、桜ライトアップ）

女性部会で組織した「ぼりめっこ」の独自会計事業として、名張駅前西口周辺エリアを旅の印象に残る玄関口に形成する取組を実施した。

- ・12月21日（火）～2月28日（月） イルミネーション事業（名張嬉来てピリオド）。

協賛者を募り（企業協賛14件、総額410,000円）、ライト類を大幅に充実するとともに昨年までと雰囲気を変えて暖色系の景観づくりに取り組み好評を得た。

- ・桜の開花時期 桜ライトアップ事業を展開した。

○「食」の提供イベント

コロナ禍のため実施を見送った。

(3) 広域観光連盟、電鉄会社などとの連携強化

○「近鉄沿線ロゲイニング2022」ゆるくまわろう！！鉄ログ in名張市

3月19日（土）近畿日本鉄道株式会社主催の事業を共催し実施した。

関西を中心に24チーム66名が参加し、観光地や蔵元、飲食店等市内全域を徒歩、公共交通機関を利用して訪れるゲームを楽しんだ。

チェックポイントの選定・協力要請や表彰式の進行、商品の提供等は協会が受け持った。

○東大和西三重観光連盟主催のキャンペーンに参画【再掲】

5 観光商品、旅行商品の開発と販売促進について

(1) ふるさと納税の返礼品受発注委託業務

受注額は前年より大幅な減少となっている。工業製品へニーズが移っていることが大きかったと分析している。

新規企画書提案数 9会員、全27提案

体験型商品については、すでに商品開発されていたNPO法人赤目四十八滝溪谷保勝会の商品について顧客増を図るため、ふるさと納税返礼品メニューとして協会が企画書案を作成した。

(2) お菓子屋さんめぐり

○「なばりでお菓子屋さんめぐり」

令和2年度末から開始した事業で、市内のお菓子屋さんや寺社、登録有形文化財を、オリジナルコインを使用してめぐる企画で集客を図った。

コイン3枚入り1,000円、5枚入り1,500円

令和3年度は、当初売上目標の30万円に対し40万円を上回る売上となり、今後に期待できる事業として定着しつつある。

○「やしんぼセット」

江戸川乱歩の生誕地名張を紹介するツールとして、市内の老舗菓子舗が乱歩の作品にちなんだ菓子などをもちよった名張のお菓子箱「やしんぼセット」を12セット受注販売した。

2,000円セット（10個入り）～3000円セット（15個入り）

（税込・送料別）

(3) お立ち寄りどころの情報発信

新型コロナウイルス感染症対策として考案された新たなテイクアウト商品や配達サービス等を始めとしてお立ち寄りどころとしての商品やサービスの情報を具体的にSNSで情報発信することにより集客に努めた。（ツイッターを中心に年間223件）

(4) オリジナルポロシャツの製作

協会オリジナルの折り紙手裏剣ポロシャツを製作・販売した。

「折り紙手裏剣」のデザインは、商標登録をした。



商標登録デザイン

Ⅲ 会員事業と協会運営に関わる事業

1 協会事務事業の実情に沿った部会活動の再検討について

運営ビジョンに基づく部会制度については女性部会以外の部会活動が停滞していることから理事会において見直しを進めている。

会員が主体となって積極的に活動できる体制づくりが課題となっている。さらに、女性部会においても同様の課題が認められたことから、部会活動全体について抜本的な再検討を行う必要がある。

2 「名張かわまちづくり事業」の推進について

名張駅前において名張市の観光振興拠点となり得る場所が確保できたことから、協会内に設置した「名張かわまちづくり推進委員会」の活動は中断し、市長を会長に名張商工会議所などが参加する「名張かわまちづくり協議会」の構成団体として事業を推進した。

3 会員特典の追求について

- 協会ホームページ上のアカウント情報の提供（自身でHP上のお知らせ更新が行える会員向けページへの事業参画）

会員が活用する事業であるが、利用が減少傾向になっている。

活用実績（年間24件）

- 会員対象のスキルアップ研修や学習会

新型コロナウイルスのまん延状況を考慮して自粛した。

- 会員数の状況

年度末現在正会員数 132会員

内新規会員数 7会員

賛助会員数 5会員

4 職員体制の見直し

協会経営の合理化を図るため、職員体制の見直しを行った。

専務理事 雇用(協会負担)1名→市からの派遣(固定給は市負担)1名

正規職員 1月31日(月)協会都合退職→当分の間不補充

臨時職員 3名→2名(嘱託員化するとともに、緊急時の代替職員を確保)